世界万華鏡　「浪曲セントルイス・ブルース」　IFA　中山恵美子／及川伊佐子

IFA は「ジュニア大使友情使節団」を 1985 年より組織している。昨年 8 月には 35 周年を記念して、ジュニア大使発祥の地である米国アラバマを再訪する記念団を派遣した。アラバマでは、2014 年まで毎年ジュニア大使が訪問していた、W. C. Handy の生家を訪ね、ブルースの父とされる W. C. Handy の孫である Prof.Carlos Handy にお会いした。

W.C.Handy の生家にて。中央が Carlos Handy

今年になり、Prof. Handy より、W. C. Handy の代表曲である、セントルイスブルースの日本語版レコードがあるので英訳して欲しいと依頼が届いた。第二次世界大戦後に硫黄島の洞窟で戦死した日本兵の遺品と言われており、W. C. Handy が晩年、好んで聞いていたという。戦前に作られたレコードで、戦時中は敵国の音楽として禁止されていたが、調べると、「浪曲セントルイス・ブルース」がそれだった。歌詞をここに紹介する。

◆

＜上＞

〽水の流れと人の身は、落つれば同じ谷川の、流れて末は太平洋へ、沖の鷗に潮時問へば

〽姿しや立つ鳥ヤッコラサノサ、トコヤントコセー、浪に訊けばの、トコズイズイ

〽川の彼方はヴァージニア、川の此方はケンタッキーで、花のブルースはらはらと、筏に散るやミシシッピー、セントルイスかブルースか……

〽そのメロディーの行くところ、いつの世までも名を遺す、おゝ春や春、春なれや、春南邦の物語……

「これさ石さん、石松さん、お前の片眼が治るやう、伊勢へ七度、熊野へ三度」

「讃岐の金比羅舟ならぬ、ミシシッピーのショーボート、舟に送られ温泉場、セントルイスの銭湯で、ゆつくり片眼の養生を、淋しからうがお半ちゃん」

「おゝ船は出て行く、煙は出ない、出ない筈だよ、アーア、無煙炭！」

＜下＞

〽冬も過ぎ、春も遺なん　春も遺なん待てど暮せど帰り来ませず　遠き空よア……　ジレッタイ

〽お話変つて石松は、朝から晩まで湯につかり、のぼせて頭がヘンになり、歌ふ文句も我ながら、馬鹿は死ななきゃ、治らない。

「なーる程ねえ、オイおッさん、いゝ文句ぢやねえ、ワシもやつぱり死ななきや駄目かねえ、あのねえ、ワシ死ぬのは叶はんよ」

〽歌は世につれ世は歌につれ、所変れば品変る。國々言葉は異なれど、歌ふ心は皆一ツ、悪事千里を走ると云へど、歌は万里を走るなり、コチャラで歌ふブルースも、アチャラで歌ふブルースも、ブルース数々あるけれど、セントルイスのブルースは、これがブルースの親玉なり。

(Prof. Handyへの英文訳・IFAホームページ掲載)

「日本ビクター蓄音器株式會社／浪曲セントルイス・ブルース上下　川田義雄」より

◆

Prof. Handy は「このレコードは辛い戦争を思い起こすが、悲しい過去を乗り越えると、戦前の日本とセントルイスブルースには文化的な類似性があることを感じる」と述べている。

令和２年８月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台 3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ 703
発行責任者：及川　伊佐子
編　　集：事務局 03(3582)3021
印　　刷：ダイト印刷㈱